

近畿運輸局による取り組みについて

(淀川における舟運を活かした賑わいづくり実証事業)

令和5年3月14日
淀川舟運活性化協議会

淀川における舟運を活かした賑わいづくり事業

大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン掲載事業 淀川舟運活性化協議会

テーマとストーリー で地域を「つなげる」

サステナブル、ガストロノミー、アドベンチャー、歴史土木建築・インフラ観光、産業観光、海事観光、地域交通との連携 等

淀川における舟運を活かした賑わいづくり事業

(訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業 実証事業)

- 淀川は古くから京都と大阪を結ぶ水上交通路として活用され、特に江戸時代に発展した流域に多くの文化が生まれた。
- このような淀川の持つ歴史、文化、生活、インフラ、特殊性等の様々な側面やにぎわいを観光資源ととらえ、2025年大阪・関西万博に向けて、観光資源としての淀川の魅力を調査し、地域のにぎわいを増進できるコンテンツに磨き上げるための方向性等を体制も含めて検証する。
- 検証結果は「淀川舟運活性化協議会」と共有することにより、関係者間での課題の認識共有や沿川地域全体への取組の広がりを促進するとともに、次年度以降の取組につなげる。

事業実施地域における背景・課題

- ・淀川大堰開門や十三における船着き場の整備等、大阪・関西万博に向けて、淀川の活用に向けたインフラ整備が進んでおり、近畿地方整備局においても2022年度に淀川におけるモニターツアーを社会実験として実施予定。
- ・淀川の地形等の問題で安全に舟で航行するための課題や、淀川・舟運を活用した観光客向けコンテンツの更なる充実が必要な状況となっている。
- ・更に、京都から万博会場までの航路については、流域活用により継続的な来訪や消費額拡大となる可能性はあるものの、流域が広域になることから取組主体がはっきりせず体制の問題がある。

令和4年度事業概要

上記課題への対応策の検討に向け、近畿運輸局と近畿地方整備局が連携し、以下の調査事業を実施

事業主体：近畿運輸局、連携：近畿地方整備局、淀川舟運活性化協議会 事業実施期間：2022年度11月-3月

1. 淀川を中心とした観光資源の収集・整理

淀川の歴史、文化、自然・風土、インフラ等の観点から、淀川を中心とした地域の様々な観光資源を収集し、淀川舟運の観光資源とし整理する。

2. 観光としての淀川舟運の磨き上げの検討

淀川舟運の観光資源やイベントなどを、二次交通アクセスを含め国内外の観光客が参加・交流できるコンテンツとして磨き上げる方向性を検討する。

3. 今後の進め方・連携体制の検討

淀川流域には自治体や事業者等の多様な関係者が存在し、これら関係者の連携・調整が必要であることから推進体制を検討する。

4. 実証運航、安全対策の検討

淀川の観光資源等のコンテンツを体験するツアーの国内外の観光客の受容度の検証、観光客がツアーを楽しむための安全対策、船着き場へのアクセスの検討を舟運の実証運航により実施する。

5. 実施結果総括

淀川の観光資源魅力、磨き上げの方向性及び方策、持続的・自立的組織・体制及び運営方策等、万博に向けた淀川舟運活性化に関するそれぞれの取組についての課題を可視化する。



沿川地域の資源を活用した観光コンテンツの商品化に向けた実証運航①（インバウンド向け）

運航事業者：大阪水上バス(株)

淀川舟運活性化協議会

事業コンセプト：関西の文化・人情を感じるおもてなしクルーズ

京都・伏見と大坂・八軒家浜をつなぐ淀川舟運では、日本各地から人や物が集まり、運ばれることで、様々な文化交流が行われていたことから、本実証事業では、『船上での人・物・事の交流を再現』する。京都と大阪・関西万博と旅行地を選んだ訪日外国人をターゲットにすることから、外国人が好むキャッチーな日本文化にはじまり、関西圏の伝統工芸や大阪人のおもてなしを通して、淀川の魅力を伝える約3時間の船旅をお届けする。

- 実施日時（まちあるき込み）
令和5年2月20日（月）14:00～19:00
- 参加者 関西在住の外国人モニターを含め 34名
※うち、外国人モニター8名、検討委員等7名、旅行会社1名
通訳案内士1名、沿川関係者11名
- コース
枚方市駅～枚方船着場～八軒家浜船着場
- コンテンツ
・関西文化体験（船内で飴細工見学・書道体験）
・食事（淀川食材を使用した特製弁当・淀川沿川の名酒）
・演出（上方講談 見学（淀川大堰の夕日見学・毛馬開門の通過体験） サプライズ花火

運航ルート



枚方まちあるき



鍵屋資料館

【参考】（アンケート）販売価格設定（いくらなら乗船するか） 単位：円

	金額(平均)	金額(最大)	金額(最小)
外国人モニター・検討委員等	11,100	25,000	6,000

※沿川関係者を除いた金額

【検証結果】（外国人モニターアンケートも踏まえて）

- ・外国人モニター約9割が枚方市駅～枚方船着場までの時間の長さは「ちょうど良かった」と回答。枚方船着場までの「キョリ」に関しては、特段問題は無いと考えられる。
- ・クルーズについては、モニター全員が「とても楽しかった・楽しかった」と回答。各コンテンツも概ね好評。特に「講談（英語）」については、外国人モニター約9割が「とても良かった」と回答。
- ・時間があっという間に過ぎたという意見もあり、船内コンテンツ次第で3時間程度のクルーズも問題ないと思われる。
- ・「まちあるき」について英語ガイド、英語表記、あるき途中での体験があればとの意見あり。
- ・英語が分からないインバウンド（特にアジア圏）へのアプローチ方法の検討が必要との意見あり。

【今後の検討事項】

- ・実際のインバウンドに対しての検証が必要。
- ・ターゲット層ごとに対してコンテンツの整理や料金設定の検討が必要。
- ・船着場までの「まちあるき」の内容についてインバウンド向けのメニューや受入体制が必要。



淀川の夕日

上方講談

インバウンド向け
船内コンテンツ

飴細工見学

書道体験

沿川地域の資源を活用した観光コンテンツの商品化に向けた実証運航②（インバウンド向け）

運航事業者：一本松海運(株)

淀川舟運活性化協議会

事業コンセプト：OSAKAの都市と自然を五感で楽しむエンターテインメントクルーズ



大阪都心で数少ない大自然を感じられる淀川。都会の喧騒とは無縁な静寂の世界に鏡面のような水面と、目の前に広がるビル群の都市夜景。OSAKAが古くから育んできたエンターテインメントとしての音楽。天下の台所と言われた時代から受け継ぐ食や酒文化。それら3つのマリアージュを訪日外国人にも分かりやすく楽しんでいただけるクルーズを運航します。

- 実施日時（まちあるき込み）
令和5年2月22日（水）16：00～19：30
- 参加者
関西在住の外国人モニターを含め 30名
※うち、外国人モニター8名、検討委員等6名、旅行会社1名
通訳案内士1名、ホテル関係者2名、沿川関係者7名
- コース
十三駅～新北野船着場（新北野緊急用船着場を2周）
- コンテンツ
・食事（ホテルプラザオースカが提供する特別な前菜・松花堂弁当）
・演出（和×PunkRock、和太鼓・三味線 など）



【参考】（アンケート）販売価格設定（いくらなら乗船するか） 単位：円

	金額（平均）	金額（最大）	金額（最小）
外国人モニター・検討員等	12,600	25,000	3,000

※沿川関係者を除いた金額

【検証結果】（外国人モニターアンケートも踏まえて）

- ・外国人モニター約9割が十三駅～十三船着場までの時間の長さは「もっと街歩きしかたかった・ちょうど良かった」と回答。十三船着場までの「キロ」に関しては、特段問題ないと考えられる。
- ・クルーズについては、モニター全員が「とても楽しかった・「とても楽しかった・楽しかった」と回答。都市夜景、食事、エンタメ総じて評価は良かった。阪急電車や橋梁に、船舶（稼働式）自体に興味があるモニターもいた。
- ・クルーズの時間は「ちょっと長くしてほしい。」との意見もあり。2時間半程度でも問題はない。
- ・エンタメの歌の曲はオリジナル曲より、「外国人知っている曲や参加型の曲がよい」との意見あり。
- ・ターゲット層は全世代が対象になりうるとモニター多数の回答あり。

【今後の検討事項】

- ・実際のインバウンドに対しての検証が必要。
- ・食事の量やメニュー（ベジタリアン・ビーガンなど）の検討が必要
- ・乗船前だけでなく、下船後のインバウンド向けにまちあるきなどの検討も必要。
※下船後のパブクロー（はしご酒）など



インバウンド向け 船内コンテンツ

シンガーによる演奏

和×PunkRock 演奏

令和4年度事業結果及び令和5年度の取組(予定)

令和4年度事業結果(概要)

※令和5年3月17日(金)開催の第3回検討会にて確定

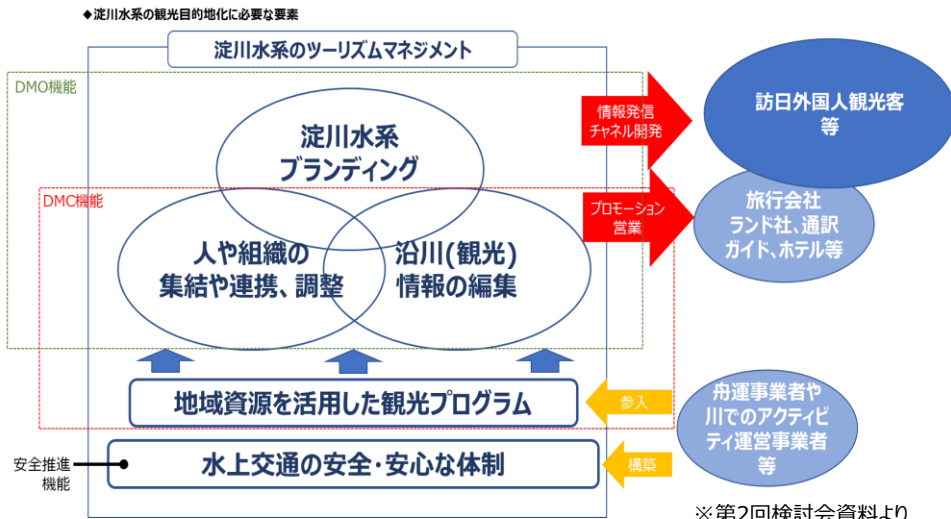
- 淀川を観光資源として活用し、観光目的地化していくためには、流域全体ではなく、**淀川沿川のエリアごとに、各関係者の取組をマネジメントする機能が必要**。
- マネジメントに必要な具体的な観点として、①淀川の観光資源としての認知度を向上させる「**淀川水系のブランディング**」、②各エリアにおける既存の枠組みなども活用した「**人や組織の集結や連携、調整**」、③まちあるき等に活用できる魅力的な観光資源を磨き上げる「**沿川(観光)情報の編集**」の3つが重要。
- 今後、**国内外から観光客を呼び込むことができる具体的な旅行商品の造成や、国内外への観光プロモーションを効果的に行うためには**、上記3つの観点を踏まえ、舟運会社、企画会社、旅行会社などが参画する**DMO・DMC的機能を有する体制の構築が必要**。

※DMO・DMC (Destination Management/Marketing Organization・Company : 観光地域づくり法人)

令和5年度の取組 (予定)

- 令和4年度事業で試行的に**実証運航を行った枚方・十三エリアを中心に**、各エリアの地域特性を勘案した上で、**DMO・DMC的機能を有する体制の構築に向けた検討**を実施。
※体制検討にあたっては、「**淀川沿川かわまちづくりネットワーク**」を活用し、沿川地域のにぎわいづくりと連動した取組を推進。
- 上記体制ごとに具体的な観光コンテンツの磨き上げ及び舟運コンテンツと淀川周辺の観光資源を組み合わせた周遊ルートを構築、併せて船着き場～最寄り駅・観光施設等におけるアクセスを検証し、**沿川の観光資源と舟運をつなげた旅行商品の造成に向けた実証**を関係者と連携して実施。
- 安全な航路の確保と河川が輻輳した場合の**航行ルールづくりに向けた検討**を継続的に実施。

淀川沿川の観光による賑わいづくり機能の方向性について



※第2回検討会資料より

